

For Earth, For Life
Kubota

連結決算説明 2019年12月期



(株)クボタ 取締役副社長執行役員 企画本部長
吉川 正人

2020年2月19日 (水)



2019年12月期連結決算概要

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期	2018年12月期	増減		直近予想比増減 (2019年11月)	
			金額	%	金額	%
売上高	19,200	18,503	+ 697	+ 3.8	+ 0	+ 0.0
国内	6,254	5,773	+ 480	+ 8.3	▲ 101	▲ 1.6
海外	12,947	12,730	+ 217	+ 1.7	+ 102	+ 0.8
営業利益	10.5% 2,017	10.2% 1,893	+ 123	+ 6.5	+ 17	+ 0.8
税引前利益	10.9% 2,090	10.7% 1,972	+ 118	+ 6.0	+ 10	+ 0.5
親会社の所有者に帰属する 当期利益	7.8% 1,491	7.5% 1,386	+ 105	+ 7.6	+ 41	+ 2.8

(億円)	2019年12月期末	2018年12月期末	増減	
			金額	%
資産合計	31,393	28,957	+ 2,437	+ 8.4
親会社の所有者に 帰属する持分	14,428	13,399	+ 1,030	+ 7.7

事業セグメント別売上高

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期	2018年12月期	増減	
			金額	%
機械	15,726	15,276	+ 450	+ 2.9
国内	3,206	3,089	+ 117	+ 3.8
海外	12,520	12,187	+ 333	+ 2.7
水・環境	3,157	2,923	+ 235	+ 8.0
国内	2,735	2,384	+ 351	+ 14.7
海外	423	539	▲ 117	▲ 21.6
その他	316	304	+ 12	+ 4.1
国内	312	300	+ 12	+ 4.0
海外	4	4	+ 0	+ 7.1
売上高合計	19,200	18,503	+ 697	+ 3.8

国内売上高	6,254	5,773	+ 480	+ 8.3
海外売上高	12,947	12,730	+ 217	+ 1.7

為替の影響（▲290億円）を除くと、機械海外は+5%の増。
海外売上全体は+4%の増

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 3

事業セグメント別売上高（前期比）

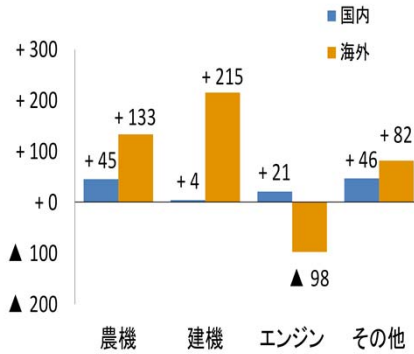
For Earth, For Life
Kubota

機械 +450億円（国内：+117 海外：+333）

- 国内**
- 農機は消費増税前の駆け込みなどにより増
 - 建機は台風の影響により前年並みに留まる
 - エンジンは堅調な需要により増

- 海外**
- トラクタは北米、タイなどで増
 - コンバイン、田植機は中国の市場低迷により大幅減
 - 建機は市場の拡大や新機種投入効果により北米で大幅増
 - その他は主に金融収益が北米やタイで増

■機械売上増減の内訳（億円）



【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 4

①機械国内

- +117億円（+4%）の増
- 農機は、消費増税前の駆け込み需要や新機種投入効果などによりトラクタ、田植機を中心に+45億円（+4%）の増
- 建機は、需要は堅調も、台風の影響による生産・出荷タイミングの遅れにより前期並みに留まる
- エンジンはOEM先の出荷が国内向け、海外向けともに好調に推移し、21億円（+12%）の増
- その他は農業関連商品などの増加により、+46億円（+3%）の増

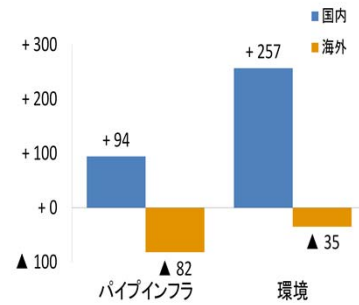
②機械海外

- 全体で+333億円（+3%）の増
- 農機のうち、トラクタは+301億円（+6%）の増
 - 北米は中・小型機の市場拡大が継続したほか、モデルチェンジ機を投入した大型機が大幅増
 - タイでは干ばつに加え、8月下旬から9月上旬の台風による洪水被害などにより成長が抑えられたものの、コメやキャッサバなどの価格安定や、農作物市況等の市場環境を勘案して重点顧客を設定するなどの販売施策の奏功もあり増
- 農機のうち、作業機は▲167億円（▲19%）の減
 - 中国では米価低迷による農家及びコントラクタの収益性低下や、コントラクタ間の競争激化により、市場の縮小が継続し、コンバイン、田植機ともに減
- 建機は+215億円（+9%）の増
 - 北米では、台風19号の影響で部品供給に遅れが発生し、日本からの出荷に遅れが生じたものの、需要拡大やコンパクト・トラック・ローダの新機種投入によるシェア拡大に加え、2018年に発生した台風の影響により一部製品の出荷時期が2019年にずれ込んだこともあり、大幅増
 - 欧州では堅調な工事需要を背景にドイツやフランスの販売は好調も、Brexitに伴う不透明感を背景とした英国での販売減やユーロやポンドに対する円高の影響により欧州全体では減
 - 中国では特に4t以上のローカルメーカーとの競争激化により減
- エンジンは▲98億円（▲7%）の減
 - 欧州で2018年に発生していた排ガス規制強化に伴う前倒し需要の反動や、北米で年後半に一部のOEM先で生産調整が発生したことにより減
- 地域別売上高は、日本及び北米で増も、欧州、アジア、その他地域では減

水・環境 +235億円（国内：+351 海外：▲117）

- 国内**
 - ・ パイプインフラ関連では、需要が堅調に推移したことにより鉄管が増。工事業は固有技術の活用により管路工事業が増
 - ・ 環境関連では、福島県双葉町での放射性廃棄物を減容化する溶融施設の売上により大幅増
- 海外**
 - ・ パイプインフラ関連では、中東向けの鉄管が減
 - ・ 環境関連では、中国の浄化槽が減

■水・環境売上増減の内訳（億円）



営業利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期		2018年12月期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
営業利益	2,017	10.5	1,893	10.2	+ 123	+ 6.5

営業利益 (+123億円) の増減要因

1.為替変動	米ドル(110円→109円 ※1) ユーロ(130円→122円 ※1) 他	▲15億円 ▲55億円 ▲25億円	▲95億円
2.為替差損益			+33億円
3.原材料	機械(鋼材、関税、買入部品 他) 水・環境(レジン、スクラップ 他)	▲40億円 0億円	▲40億円
4.インセンティブ率変動	北米+133億円 他		+124億円
5.増販益			+190億円
6.製品値上げ			+153億円
7.その他			▲242億円

※1: 但し、日本からの製品輸出にかかる輸送、在庫期間を加味した利益実現レートは、米ドル110円→110円、ユーロ131円→124円程度

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 6

- 原材料価格 (▲40億円)
 - ✓ 中国に対する追加関税の影響や主に国内での買入部品のコストアップなどによる
- インセンティブ率の変動 (+124億円)
 - ✓ 米国では熾烈な販売競争が続いており、強い水準のインセンティブプログラムが維持されているものの、金利の低下によるインセンティブ率の改善が大きな増益要因
- 製品値上げ (+153億円)
 - ✓ 米国販売会社での値上げなどが中心
- その他 (▲242億円)
 - ✓ 人件費の増が▲54億円、販売経費の増が▲130億円、製造経費の増が▲10億円、その他▲48億円
 - ✓ その他の内、その他 (▲48億円) には台風などの自然災害に伴う損失が▲40億円程度含まれる (18年と19年の台風の影響がそれぞれ▲20億円程度)

事業セグメント別営業利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)		2019年12月期 実績	2018年12月期 実績	増減
機械	売上高	15,726	15,276	+ 450
	セグメント利益	2,045	2,009	+ 36
	利益率	13.0%	13.2%	▲0.1P
水・環境	売上高	3,157	2,923	+ 235
	セグメント利益	267	199	+ 69
	利益率	8.5%	6.8%	+1.7P
その他	売上高	316	304	+ 12
	セグメント利益	36	30	+ 6
	利益率	11.4%	9.9%	+1.5P
全社/消去	セグメント利益	▲ 332	▲ 345	+ 13
計	売上高	19,200	18,503	+ 697
	営業利益	2,017	1,893	+ 123
	利益率	10.5%	10.2%	+0.3P

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 7

- 機械は、固定費の増加や円高の影響を、国内外での増販や米国での金利低下によるインセンティブ率の改善、値上げ効果などで補い増益
- 水・環境は、国内での鉄管や工事、双葉町案件での増販効果や値上げなどにより大幅な増益となり、全社の増益額のうち半分強を占める
- 全社/消去の増益は主に為替差損益の改善による

税引前利益・当期利益

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期		2018年12月期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
税引前利益	2,090	10.9	1,972	10.7	+ 118	+ 6.0
当期利益	1,591	8.3	1,501	8.1	+ 89	+ 6.0

当期利益の帰属

親会社の所有者	1,491	7.8	1,386	7.5	+ 105	+ 7.6
非支配持分	100	0.5	116	0.6	▲ 15	▲ 13.2

1株当り配当	36 円		34 円		+ 2 円	
配当性向	30 %		30 %		▲ 1 P	
自己株消却額	196 億円		29 億円		+ 167 億円	
総還元性向	43 %		32 %		+ 10 P	

2019年9月に自己株11,980,000株を消却

株主還元推移

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	増減	累計 (4年9ヶ月)	
	12月期 (9ヶ月)	12月期	12月期	12月期	12月期			
	米国基準			IFRS				
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,101	1,325	1,364	1,386	1,491	+ 105	6,667	
(1株当たり)	(88.47円)	(106.58円)	(110.30円)	(112.44円)	(121.59円)	(+9.15円)		
還元額	配当	349	373	395	419	441	+ 22	1,976
	(1株当たり)	(28円)	(30円)	(32円)	(34円)	(36円)	(+2円)	
	自己株消却	25	60	132	29	196	+ 167	441
(百万株)	(1.3百万株)	(3.8百万株)	(7.1百万株)	(1.5百万株)	(12.0百万株)	(+10.5百万株)		
還元額計	374	433	527	448	636	+ 189	2,418	

配当性向	32%	28%	29%	30%	30%	▲ 1P	30%
総還元性向	34%	33%	39%	32%	43%	+ 10P	36%

配当性向 目標 30% を継続

自己株買取・消却 * 毎年 実施 を継続

総還元性向 毎年 30%超 を継続

* 自己株買取・消却： 買取“即”消却を継続する。また、買取資金には主に資産(保有株等)の
売却手取金を充当する(有利子負債の抑制)

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 9

- 株主還元の基本方針は変更なし

財政状態計算書（資産）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2019年12月期末	2018年12月期末	増減	為替を除く 増減
流動資産	17,189	16,395	+ 794	
現金及び現金同等物	1,997	2,291	▲ 295	
営業債権	6,826	6,604	+ 222	+ 220
金融債権	2,939	2,673	+ 267	
棚卸資産	3,824	3,707	+ 117	+ 130
その他	1,603	1,120	+ 483	
非流動資産	14,204	12,561	+ 1,643	
金融債権	6,992	6,219	+ 774	
その他	7,212	6,342	+ 869	
資産合計	31,393	28,957	+ 2,437	
金融債権 計	9,932	8,891	+ 1,040	+ 960

<ご参考> 海外子会社期末日レート

	（円）		
米ドル	110	111	▲ 1
ユーロ	123	127	▲ 4

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 10

- 営業債権は為替の影響を除いた実質ベースで+220億円の増
 - ✓ 販売が好調だった北米の販売会社などでディーラー在庫の補充が進んだことにより増加
- 棚卸資産は実質ベースで+130億円の増
 - ✓ 農機市場が大幅に縮小した中国で在庫を削減したものの、北米で増加したことなどにより増加
- 金融債権は流動・非流動あわせて実質+960億円の増
 - ✓ 主に北米やタイの小売好調による
 - ✓ 金融債権の回収は依然良好な状態を維持
- 非流動資産の「その他」が+869億円増加
 - ✓ 有形固定資産が+753億円増加したことが主要因
 - ✓ 有形固定資産の増には新会計基準（IFRS第16号「リース」）の適用により、当期にリースの使用権資産を計上した一過性の影響が約430億円含まれる

財政状態計算書（負債）

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期末	2018年12月期末	増減	為替を除く 増減
流動負債	10,017	9,228	+ 789	
社債及び借入金	3,865	3,491	+ 375	
営業債務	2,938	3,068	▲ 130	
その他	3,214	2,670	+ 544	
非流動負債	6,004	5,464	+ 540	
社債及び借入金	5,164	4,902	+ 262	
その他	839	562	+ 277	
負債合計	16,021	14,692	+ 1,329	
有利子負債	9,030	8,393	+ 637	+ 610
DEレシオ（ネット）	0.49	0.46	+ 0.03	
金融を除くDEレシオ（ネット）	▲ 0.14	▲ 0.18	+ 0.04	

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 11

- 有利子負債は流動・非流動あわせて実質+610億円の増
 - ✓ 金融債権の増により北米で増加
- 流動負債および非流動負債の「その他」が合計で+821億円増
 - ✓ 約390億円が新会計基準（IFRS第16号「リース」）の適用により、リース負債を計上したことによる
 - ✓ 使用権資産の計上額より少ないのは、中国での土地リース料の前払いなどのように、リース負債が計上されないものがあるため

財政状態計算書（資本）

For Earth, For Life
Kubota

（億円）	2019年12月期末	2018年12月期末	増減
親会社の所有者に帰属する持分	14,428	13,399	+ 1,030
非支配持分	944	866	+ 78
資本合計	15,372	14,264	+ 1,108
親会社所有者帰属持分比率	46.0%	46.3%	▲ 0.3P

（億円）	2019年12月期	2018年12月期	増減
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,491	1,386	+ 105
親会社所有者帰属持分当期利益率 (ROE)	10.7%	10.5%	+ 0.2P

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 12

キャッシュ・フロー計算書

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2019年12月期	2018年12月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	824	891	▲ 67
金融債権の増加	▲ 970	▲ 973	+ 3
その他	1,794	1,864	▲ 71
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 915	▲ 588	▲ 327
有形固定資産及び無形資産の取得	▲ 949	▲ 634	▲ 315
その他	34	46	▲ 13
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 215	▲ 278	+ 63
為替レート変動の現金及び現金同等物に対する影響	11	▲ 42	+ 53
現金及び現金同等物の純減	▲ 295	▲ 16	▲ 279
フリーキャッシュ・フロー	▲ 124	258	▲ 382
フリーキャッシュ・フロー（金融債権の増減を除く）	845	1,230	▲ 385

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社 Kubota 13

- 営業活動によるキャッシュ・フローの内訳は利益と減価償却費で+2,213億円の収入、金融債権の増で▲970億円の支出、その他▲420億円の支出
 - ✓ その他は、営業債権の増加などによる
 - ✓ 「金融債権の増減」は米国会計基準では投資活動によるキャッシュフローに含まれていたが、IFRSの適用に伴い2018年12月期より営業キャッシュフローに分類されている
- 今年策定する中期計画においても営業キャッシュフローの拡大を重視する
- 投資活動によるキャッシュ・フローには、新研究開発拠点建設のための土地の取得や、エンジンの新機種生産のための投資などが含まれる
- フリーキャッシュフローは前年比▲382億円減少して▲124億円の支出
 - ✓ 当社が重視する金融債権の増減を除いたフリーキャッシュフローは、845億円の収入

金融事業の状況 <ご参考（非監査）>

For Earth, For Life
Kubota

財政状態計算書

(億円)	2019年12月期末		2018年12月期末	
	金融事業	金融事業を除く ベース	金融事業	金融事業を除く ベース
資産合計	11,812	20,482	11,011	19,071
現金及び現金同等物	198	1,798	207	2,084
営業債権	293	6,557	311	6,312
金融債権	9,932	-	8,891	-
棚卸資産	-	3,824	-	3,707
有形固定資産	5	4,049	6	3,295
その他	1,384	4,254	1,596	3,673
負債合計	9,965	6,786	9,320	6,344
有利子負債	9,380	-	8,757	-
その他	584	6,786	563	6,344
資本合計	1,847	13,697	1,691	12,727

損益計算書（金融事業）

(億円)	2019年12月期		2018年12月期		増減	
	金額	金額	金額	金額	%	%
売上高	760	659	+ 101		+ 15.4	
営業利益	253	269	▲ 16		▲ 5.9	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	154	182	▲ 28		▲ 15.3	

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 14

- 非金融事業は無借金状態を維持
- 金融事業は十分な収益性を維持
 - ✓ 2019年度の収益性の低下はタイの金融子会社で2018年度に予想信用損失の考え方を導入し、良好な景気状況を反映して引当を減額したことなどにより、2019年は一時的に貸倒引当費用が前年比で増加したことが主要因
 - ✓ 利ザヤの水準や金融債権の健全性は良好な状態を維持

機械事業の市場環境

市場環境（北米）

For Earth, For Life
Kubota

米国

足元の堅調な景気や住宅着工を背景にトラクタ・建機市場は穏やかな成長を続けるものの、厳しい競争環境は継続すると想定

トラクタ小売

小型は底堅い景気を背景に穏やかな成長が持続。中・大型も回復傾向が続く。当社は従来から市場要望の強かった中型トラクタの新製品等を円滑に市場浸透させ、シェア拡大を図る

建機/小売

堅調な建設需要を背景に成長持続。当社はディーラー網の着実な拡充によりシェア拡大を図り、小売は増加するも、2019年の新機種投入効果の反動等により卸売は減少する見込み

エンジン/卸売

前半はOEM先の在庫調整等で減、後半は回復し年間では前年並み

■ トラクタ市場小売台数伸長率（前年同期比）

		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-9月	1-12月
		2018年	0-40馬力	+1.6%	+11.6%	+13.1%	+7.3%	+8.3%
	40-120馬力	▲2.1%	+6.5%	▲0.1%	+2.4%	+3.0%	+1.9%	+2.1%
	120-160馬力	▲13.8%	▲3.6%	+14.3%	▲8.9%	▲8.1%	▲1.7%	▲3.9%
2019年	0-40馬力	+9.7%	+4.9%	+6.4%	▲0.1%	+6.4%	+6.4%	+5.0%
	40-120馬力	▲0.8%	▲0.2%	+7.2%	▲4.1%	▲0.4%	+2.2%	+0.5%
	120-160馬力	▲5.7%	+2.3%	+16.6%	▲0.4%	▲1.0%	+4.8%	+3.3%

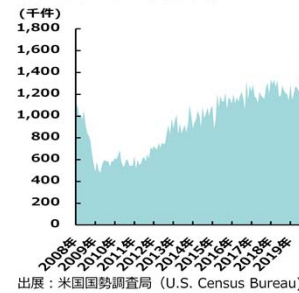
出展：AEM（Association of Equipment Manufacturers）

■ 0-8ピバックホー市場小売台数伸長率（前年同期比）

	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-6月	1-9月	1-12月
2018年	+5.9%	+15.3%	+14.1%	+0.8%	+11.6%	+12.4%	+9.3%
2019年	+2.7%	+7.4%	+11.0%	+25.0%	+5.6%	+7.4%	+11.7%

出展：AEM（Association of Equipment Manufacturers）

■ 米国住宅着工件数 （季節調整済・年率換算）



【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 16

- 主力の米国では、米中貿易摩擦の先行きや大統領選挙後の景気動向に不透明感はあるものの、足下の景気は堅調に推移

- ✓ 住宅着工は130万戸を超える高水準の高水準で推移（2019年12月は161万戸）

① トラクタ

- ✓ ホームオーナー向けが中心の小型（40馬力以下）は、緩やかな成長が継続
- ✓ 金利低下による金利費用の負担減少を背景に、競合の積極的な販売攻勢は継続する可能性が高く、引き続き厳しい競争環境が継続すると想定。当社は新製品の円滑な市場投入を通じ、シェアの拡大を目指す
- ✓ 中型（40馬力～120馬力）は、ここ数年縮小傾向が続いていたが、2018年に回復に転じ、2019年も穏やかな成長が継続、2020年も同様の傾向が継続する見込み。当社は市場からの要望が強かった新製品の投入を通じ、シェアの拡大を目指す
- ✓ 大型（120馬力以上）については、2019年より市場が拡大傾向に転じており、昨年の農家収入の増加を背景に2020年も回復傾向が続く見込み。2019年はモデルチェンジ機の販売好調により、シェアも上昇しているが、今年も販売施策の着実な推進を通じ、10%超のシェアを目指す
- ✓ 最大馬力210馬力のM8トラクタも投入し、ラインアップを拡充

② 建機

- ✓ 低金利を背景とした堅調な建設需要により、成長が継続すると見込む
- ✓ 当社は建機ディーラー網の拡充を着実に進めて、シェアの向上を図る
- ✓ ただし、2018年に発生した台風の影響で、一部製品の出荷が2018年から2019年にずれ込んでいたことや、新製品投入に伴い2019年にディーラー在庫の充当を進めた反動により、建機の卸売は減少する見込み

③ エンジン

- ✓ 前半はOEM先の在庫調整により減少するものの、後半には回復に転じ、年間では前期並みの売上を想定

- 2019年3月よりトラクタ、建機について製品値上げを実施し、順調に浸透したことから、今年も一部のトラクタと部品で値上げを実施予定

欧州

**農業市場は昨年の天候不順の影響で低調。
建機市場は欧州経済の先行き不透明感から市場縮小を想定**

トラクタ小売

小型は前年並みの需要を見込む。
中型・大型は欧州経済・農業市場の先行き不透明感から市場の縮小を予想。
当社は中型・大型の新排ガス規制（Stage V）対応機などの新機種投入を通じてシェア拡大を目指す

インプラメント/卸売

農用市場の低迷により、強い需要は期待できず

建機/小売

欧州経済の先行き不透明感により欧州全体では縮小を見込む。
ただし、EU離脱を控えた先行き不透明感から昨年は買い控えが発生していた英国では、回復を想定。
当社はディーラー網の強化やフルモデルチェンジ機の投入によりシェア拡大を図る

エンジン/卸売

欧州経済の先行き不透明感から、Stage V 導入後の反動で落ち込んだ前年並みの市場を想定

- ① トラクタ
 - ✓ 中型（農業市場向け）は、昨年の天候不順や欧州経済の先行き不透明感を背景に、減少傾向を想定
 - ✓ 小型は、前年並みの需要を想定
- ② インプラメント
 - ✓ 前年の天候不順や欧州経済の先行き不透明感から、市場の縮小を想定
- ③ 建機
 - ✓ 欧州経済の先行き不透明感により欧州全体では縮小傾向を見込む
 - ✓ 一方、2019年にBrexitに伴う先行き不透明感からレンタルメーカーを中心に買い控えが発生していたイギリスについては、穏やかな回復を想定
 - ✓ 当社はディーラー網の強化や新機種の投入を着実に進め、シェアの向上を図る
- ④ エンジン
 - ✓ 2019年は排ガス規制強化前の駆け込み需要の反動減が発生しており、そこからの回復が期待されるものの、景気不透明感によるOEM先の慎重な生産計画を受けて、前年並みの販売に留まる見込み

タイ・
周辺国

前半は昨年の天候不順の影響が継続するものの、雨季の天候が平年並みとなることにより、年後半には回復する見込み

トラクタ・
コンバイン
小売

前半は昨年の天候不順の影響が継続し、低調を予想。年後半には天候の回復と堅調な穀物価格を背景に増加し、年間では増加基調を見込む。当社は新規顧客の開拓や、トラクタの新製品の投入により更なる事業拡大を図る

建機/小売

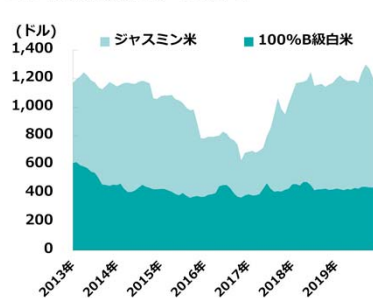
大型プロジェクトの継続や地方での都市化工事の増加などにより需要は拡大する見込み

周辺国/卸売

<カンボジア>
キャッサバの価格好調を受け、トラクタ市場の拡大を予想。天候の回復によりコンバイン市場も回復を見込む

<ミャンマー>
機械化の進展により市場は拡大

■ タイ米輸出価格推移 ドル/トン



出典：国際連合食糧農業機関

- ① トラクタ（タイ国内向け）
 - ✓ 昨年の天候不順による農家収入の減少や、足元の水不足を受けて前半は低調に推移するものの、堅調な穀物価格や、雨季の天候が平年並みとなることにより、後半の需要は回復し、年間では市場の拡大を見込む
 - ✓ 当社は新規顧客の開拓や、主力機種のマイナーチェンジ機の投入を通じ、さらなる事業拡大を目指す
- ② コンバイン（タイ国内向け）
 - ✓ 天候不順の影響で後半の販売シーズンに需要が低迷した昨年から回復し、市場は拡大する見込み
 - ✓ 当社は顧客リストの分析による潜在顧客の抽出と積極的な営業活動により、さらなるシェアの拡大を目指す
- ③ 建機（タイ国内向け）
 - ✓ 大型プロジェクトの継続や地方での都市化工事の増加などにより需要は拡大する見込み
- ④ 周辺国
 - ✓ カンボジアはキャッサバ価格の高位安定により、引き続きトラクタの需要は拡大する見込み
 - ✓ コンバインについても、昨年後半の低迷から回復し、市場の拡大を見込む
 - ✓ ミャンマーでは近年ドル高チャット安の進行がディーラーの採算悪化につながり、市場が低迷していたが、2019年後半から市場が回復傾向に転じており、当期も機械化の進展による市場の拡大を見込む

中国

中央政府農機購入補助金は現時点では未定ながら前年並みを想定。米価低迷やコントラクタ間の競争激化で農機市場は緩やかな縮小が継続。

トラクタ/小売

米価低迷を受け、養殖への切り替え等が進み、市場は縮小

コンバイン/小売

コントラクタ間の競争激化や、米価及び中古機価格の下落を受け、市場の縮小は継続。当社は馬力や処理能力をアップした新製品の投入により横ばいを見込む

田植機/小売

歩行田植機は市場の縮小が継続

建機/小売

ローカルメーカーの激しい価格攻勢により厳しい競争環境が継続

エンジン/卸売

市場は前年並みを想定。当社はフォークリフト向けなどの増販を見込む

■中国 中央政府農機購入補助金推移

		2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
補助金(億円)	第1次	-	-	110	130	200	170	210	228	186	186	180
	年間計	130	155	175	215	218	238	238	237	186	186	180

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 19

- 農機事業は、昨年は米価低迷、コントラクタ間の競争激化により市場の縮小が継続するも、固定費の削減や体質改善を図り、減収ながら増益
 - 今年の中央政府農機補助金の予算規模は現時点ではまだ発表されていないものの、前年並みは確保されると見込む
 - 昨年の東北地方での水害被害や米価低迷の影響などにより、今年も厳しい市場環境が継続する見込み
- ① トラクタ・田植機
 - ✓ 需要は縮小する見込み
 - ② コンバイン
 - ✓ 機械化率の低い畑作向けのコーンコンバインについては市場が前年並みで推移するものの、主力の汎用コンバインや自脱コンバインは緩やかな縮小が続く
 - ✓ 当社は市場環境に対応し、馬力や処理能力をアップした汎用コンバインの新機種を投入し、シェアの改善を図る
 - ③ 建機
 - ✓ 米中貿易摩擦の影響で中国景気が減速傾向となり、市場の不透明感が増す一方で、ローカルメーカーの価格攻勢は激化しており、厳しい競争環境が継続する見込み
 - ④ エンジン
 - ✓ 2019年に新規採用されたフォークリフト向けの増販などにより好調を維持する見込み

日本

昨年の消費増税前の駆け込み需要の反動などで、各機種とも市場の縮小を想定。
建機は台風の影響による昨年からの出荷時期のずれ込みによる市場の拡大を見込む

農機 / 小売

昨年の消費増税前の駆け込みの反動や、自然災害の被災地域での販売停滞などにより各機種とも市場の縮小を想定。当社は直進キープ機能付きトラクタなどの新製品の投入を通じてシェアの拡大を目指す

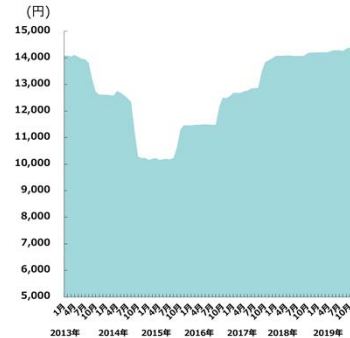
建機 / 小売

昨年後半は台風の影響によるメーカー各社の供給力不足により、出荷時期が今年にずれ込み、市場は拡大する見込み

エンジン / 卸売

国内OEM先の北米市場向け輸出を中心に堅調に推移する見込み

■ 日本米の生産者価格推移 円/60kg



出典：農林水産省「農業物価統計調査」

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 20

① 農機

- ✓ 農家戸数の減少や高齢化などの構造的な問題はあつたものの、昨年は消費増税前の駆け込み需要もあり、トラクタ、田植機の市場は微増、コンバイン市場は微減
- ✓ 今年については昨年の消費増税前の駆け込みの反動や、自然災害の被災地域での販売停滞などで、各機種ともに市場の縮小を見込む
- ✓ 当社は、直進キープ機能付きトラクタなどの新機種やトラクタ、コンバイン、田植機の130周年記念モデルの投入を通じて、更なるシェアの拡大を目指す

② 建機

- ✓ 昨年は消費増税前の駆け込み需要により10月までは累計で市場が拡大傾向となつていたものの、台風の影響による生産停止などで各社ともに十分な製品供給ができず、年間では市場は減少
- ✓ 今年には昨年からの需要のずれ込みにより、市場は拡大する見込み
- ✓ 当社はレンタル業者向けセグメントでのシェア拡大を通じて売上の拡大を目指す

③ エンジン

- ✓ 国内OEM先の北米市場向け輸出の好調などにより、堅調に推移する見込み

業績予想

2020年12月期業績予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2020年12月期 (予想)	2019年12月期 (実績)	増減		2020年12月期 2Q累計 (予想)
			金額	%	
売上高	19,500	19,200	+ 300	+ 1.6	9,700
国内	6,265	6,254	+ 11	+ 0.2	3,090
海外	13,235	12,947	+ 288	+ 2.2	6,610
営業利益	10.3% 2,000	10.5% 2,017	▲ 17	▲ 0.8	9.6% 930
税引前利益	10.6% 2,070	10.9% 2,090	▲ 20	▲ 1.0	9.9% 960
親会社の所有者に帰属する 当期利益	7.6% 1,480	7.8% 1,491	▲ 11	▲ 0.7	7.0% 680

新型コロナウイルスの感染拡大による業績への影響については、想定が困難なため本業績予想には反映しておりません。

事業セグメント別売上高予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2020年12月期 (予想)	2019年12月期 (実績)	増減	
			金額	%
機械	15,900	15,583	+ 317	+ 2.0
国内	3,105	3,063	+ 42	+ 1.4
海外	12,795	12,520	+ 275	+ 2.2
水・環境	3,280	3,301	▲ 21	▲ 0.6
国内	2,840	2,878	▲ 38	▲ 1.3
海外	440	423	+ 17	+ 4.1
その他	320	316	+ 4	+ 1.1
国内	320	312	+ 8	+ 2.4
海外	-	4	▲ 4	▲ 100.0
売上高合計	19,500	19,200	+ 300	+ 1.6
国内売上高	6,265	6,254	+ 11	+ 0.2
海外売上高	13,235	12,946	+ 288	+ 2.2

*社内組織の変更に伴い、従来「機械部門」に含めていた「空調」を2020年12月期より「水・環境部門」に変更。この変更に伴い2019年12月期についても同様の分類に組替再表示しています。

為替の影響(▲120億円)を除くと、機械海外は+3%の増。海外売上全体は+3%の増

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 23

- 国内
 - ✓ 昨年の消費増税前の駆け込みからの反動により農機が前年比マイナスとなるものの、建機の増加などにより機械全体では増
 - ✓ 水・環境については、DBO案件などによる環境プラントの増や工事事業の増はあるものの、2019年に福島県双葉町における放射能汚染廃棄物の減容化プラントの建設に伴う大きな売上が計上されていたことが前期比での減収要因となるため、水・環境全体では減
- 海外
 - ✓ 機械の建機が2018年に発生した台風の影響で一部製品の出荷が2018年から2019年にずれ込んでいたことや、昨年の新製品投入からの反動で減収となるものの、トラクタの増収で補うほか、水・環境も微増となるため、海外全体では増
 - ✓ 為替の影響はドル、ユーロ、パーツなどが円高となるため、合計で▲120億円程度のマイナス

営業利益予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)	2020年12月期 (予想)		2019年12月期 (実績)		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
営業利益	2,000	10.3	2,017	10.5	▲ 17	▲ 0.8

営業利益 (▲17億円) の増減要因

1.為替変動	米ドル(109円→108円 ※1) ユーロ(122円→120円 ※1) 他	▲50億円 ▲30億円 ▲10億円	▲90億円
2.為替差損益			+30億円
3.原材料	機械(鋼材、関税、買入部品 他) 水・環境(レジン、スクラップ 他)	▲10億円 +10億円	0億円
4.インセンティブ率変動	北米▲28億円 欧州▲15億円 他		▲45億円
5.増販益			+130億円
6.製品値上げ			+40億円
7.その他			▲82億円

※1: 但し、日本からの製品輸出にかかる輸送、在庫期間を加味した利益実現レートは、米ドル110円→108円、ユーロ124円→120円程度

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 24

- インセンティブ率の変動 (▲45億円)
 - ✓ 米国の金利は前年と比べて低水準で推移するも、昨年発生したインセンティブ費用の引当金の取り崩し益がなくなる影響を補い切れず、減益要因となる見込み
- 製品値上げ (+40億円)
 - ✓ 2019年に続き、北米で一部の製品の値上げを実施することなどにより増益要因となる見込み
- その他 (▲82億円)
 - ✓ 販売経費の減や、エンジンの空輸減などが増益要因となるも、人件費や研究開発費・減価償却費が増加
 - ✓ 台風19号による部品調達の遅れなどの要因により、2019年第4四半期の生産が落ち込んだため、期末在庫に含まれる生産損益が悪化しており、この悪化分が出荷に伴って当期に実現されることなどにより▲60億円程度悪化する見込み

事業セグメント別営業利益予想

For Earth, For Life
Kubota

(億円)		2020年12月期 (予想)	2019年12月期 (実績)	増減
機械	売上高	15,900	15,583	+ 317
	セグメント利益	1,990	2,031	▲ 41
	利益率	12.5%	13.0%	▲ 0.5P
水・環境	売上高	3,280	3,301	▲ 21
	セグメント利益	290	281	+ 9
	利益率	8.8%	8.5%	+0.3P
その他	売上高	320	316	+ 4
	セグメント利益	30	36	▲ 6
	利益率	9.4%	11.4%	▲ 2.1P
全社/消去	セグメント利益	▲ 310	▲ 332	+ 22
計	売上高	19,500	19,200	+ 300
	営業利益	2,000	2,017	▲ 17
	利益率	10.3%	10.5%	▲ 0.2P

*社内組織の変更に伴い、従来「機械部門」に含めていた「空調」を2020年12月期より「水・環境部門」に変更。
この変更に伴い2019年12月期についても同様の分類に組替再表示しています。

【2019年12月期決算説明会資料】株式会社クボタ 25

■ 為替レート

		2020年12月期 (予想)	2019年12月期 (実績)	2018年12月期 (実績)
円/米ドル	上期(1~6月)	108	110	109
	下期(7~12月)	108	108	112
	年間(1~12月)	108	109	110
円/ユーロ	上期(1~6月)	120	124	132
	下期(7~12月)	120	120	129
	年間(1~12月)	120	122	130

■ 設備投資・減価償却費・研究開発費

(億円)	2020年12月期 (予想)	2019年12月期 (実績)	2018年12月期 (実績)
設備投資*	1,150	867	641
減価償却費*	560	489	496
研究開発費	590	531	538

* : IFRS第16号「リース」の適用に伴う使用権資産の計上及び使用権資産に係る減価償却費は含まない

- 設備投資は最大1,150億円
 - ✓ 国内、北米での統合基幹システム導入のためのIT投資や、BCP対策、エンジンの新機種生産立ち上げ、北米・欧州での研究開発拠点の投資などを予定

本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。



ご清聴ありがとうございました。

For Earth, For Life
Kubota